



# 朝日新聞

## Tokyo Evening

2017年(平成29年)

### 5月9日

火曜日 夕刊

朝日新聞東京本社

〒104-8011 東京都中央区築地 5-3-2  
電話 03-3545-0131 www.asahi.com

# ミドリガメ のんびり 駆除

ペットとして飼われていた外来種のアカミミガメ(ミドリガメ)が公園などに捨てられて増殖、在来種の脅威となり、農作物を食べている。そんな中、ひなたぼっこ好きのカメの習性を利用して捕まえる「日光浴わな」が全国で広がりつつある。仕掛けを簡単に作ることができる手軽さから、環境保全をする地域ぐるみの活動で活躍している。



ひなたぼっこをするアカミミガメ(ミドリガメ)

## 「日光浴わな」広がる

### 捨てられて増殖

東京都練馬区の石神井公園東側に広がる石神井池に小さいかだ「日光浴わな」が浮かぶ。仕組みは簡単だ。木材や塩化ビニール製のパイプで作った四角い枠の外側に金網の足場をかけ、内側には網を張る。外側から上ってきて内側に落ちると網の中に入り、出られなくなる。

アカミミガメは1950年代に米国からの輸入が始まった。子ガメは体長数センチのきれいな緑色で、かつて祭りの露店などで売られ、ペットとして人気が出た。だが、成長すると30センチ近くにもなり、捨てられて池な

どで繁殖。雑食性でニホンイシガメなど外来種のエサや生息場所を奪ったり、貴重な水生植物を消失させたり、農作物を食べたりする被害が全国で相次ぐ。

### アカミミガメが日光浴わなにかかる仕組み

- ①足場を使ってわなの枠に上がる
- ②枠の内側に落ちたり飛び込んだりする
- ③内側には足場がなく上がれない



指定を検討している。毎日見回り不要  
日光浴わなは米国で考案され、日本では00年代に自作されるようになった。環境NPO「生態工房」が12年に防除の手引で紹介、関西などでも広がった。

### 毎日見回り不要

指定を検討している。毎日見回り不要  
日光浴わなは米国で考案され、日本では00年代に自作されるようになった。環境NPO「生態工房」が12年に防除の手引で紹介、関西などでも広がった。

### 農作物など守る

ため池が全国一多い兵庫県明石市や高砂市などを管轄する兵庫県農産局では現在、約20カ所に日光浴わなを置く。明石市では昨年度、236匹を捕獲。1回で約130匹がかかったこともある。4年前から取り入れる光が丘公園(東京都練馬区)の池では残り数匹までに減った。生態工房の片岡友美理事(44)は「特に個体数が減ったから、このわなの強みが発揮される」という。



わなには10匹以上のカメがかかっていた。4月25日、東京都練馬区の石神井公園

魚のアラなどにおいの強いエサの持ち運びが必要だ。日光浴わなはカメのひなたぼっこを気長に待てばよい。環境省も注目し、効率的な使い方を検証している。

辺輝世さん(81)は「エサはいらぬし、丈夫。『こりゃあいい』と思った」。オニバスには復活の兆しが見えるという。「去年は100匹くらい捕まえた。今年は200〜300匹はいきたい」と意気込む。徳島県のわなは改良が続けられ、現在8代目だ。鳴門市だけで1500万円とも推計される農産品のレンコンの被害を防ごうと、小型化や水に沈みにくい枠に挑戦してきた。レンコン田につながる水路や池で使いやすいように、さらなる小型化や、景観に配慮した色や素材も検討している。大阪を中心に在来種の保護活動を進める「和亀保護の会」では、地元環境団体とわなを共作。高校生もわなの自作に取り組みなど、地域の輪が広がった。代表の西堀智子さん(55)は「『ボチボチやる』ペースが地域活動としてよかった。外来種を防除することの大切さへの認識も深まった」と喜んでいる。(小坪遊、戸田政考)